
天使となった男

Delay

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使となった男

【Zコード】

N5032BA

【作者名】

Delay

【あらすじ】

少女を庇つて死んでしまった男がリリカルなのはの世界に転生する話

プロローグ（前書き）

思いつきで投稿してみました、何か変なところがあったらすいません

ん

プロローグ

商店街に疲れたような顔をしている一人の少年がいた

「暇だ、何か面白いことないかなあ、・・・まあ、折角商店街に来たんだから何か買つてくれか」

と、その少年（俺）はすぐ近くにあるカードシヨップに足を運んだ。

~~~~~それから一時間後~~~~~

俺はさつきまでの疲れているような顔ではなく喜んでいる顔になっていた

「ここに商店街に来たのは半年ぶりだな、懐かしいもんだ、ち  
ょうど欲しかったやつも売つてたからつい買つちまつたぜ」

欲しかったものが手に入ったのがそんなに嬉しいのか家に帰りながら俺は鼻歌を歌つていた。

家の近くの交差点を渡る直前にトラックが一台信号無視して突つこんできたのを直撃した、交差点を渡つて人がいなかつたら俺はこの場から何事もなかつたかのように立ち去ることが出来たどう、だが俺にはそれが出来なかつた、何故なら交差点には少女がトラックに気づかずのんびり歩いていたのである、この状況で分かる

「とにかくのままではあの少女が死んでしまうことだけだった

そのことを理解した瞬間俺は少女に向かつて走り出した、ある程度鍛えていたおかげか少女を抱え込むことはできたがトラックの運転手は眠っているのか速度は遅くならず逆に速くなっているようだった

「俺だけなら兎も角、何の罪もない子供を殺させてたまるかあああー！」

と叫んだあと俺はその少女を庇うよつとしてトラックに跳ねられた。俺が庇つたからか少女には傷一つない、そのことに安堵しつつ薄れゆく意識の中俺はその少女の頭を撫でながら

「大丈夫かい？ 怪我はしていないかい？」

そう聞いたそれを聞いた少女は泣きながら顎を無理やり笑顔を作つて俺にこいつ言った

「お兄ちゃん、ありがとう私を助けてくれて」

その言葉を聞いた後俺はゆっくり息を引き取つた、その時の顔は死んだとは思えないくらい爽やかだった

「これが俺の死因ね、まあどうあえず回想という名の現実逃避は終わつたことだしそろ現実に目向けてますかな

「おっさん誰よ」

## プロローグ2

ついさっき俺が死んだところまでの回想が終わって俺は今日の前にいる爺さんにあんた誰と問い合わせたその返答といつのが

「ん? 儂か、儂は神じや」

といつ正直かなり痛い発言だつた

「なあ爺さんその年になつて厨一病発症するなよ病院行つた方がいいんじゃないのか?」

少しからかつよつて聞いてみると

「儂は厨一病患者ではない! 本物の神様じや」

と熱く言つてるので本物の神様だといつことが分かつた。

でもなんでそんな神様の田の前にいるんだ? いつ

「すまんかった! …」

と言つと神様はいきなり俺に土下座してきた、しかも何気に俺の心読んでないかこの神様

それといきなり神様に土下座された俺は多少だが混乱していた

「えつと神様? 何で俺なんかに土下座なんかしているんですか?

「それはのうお主が庇つたあの少女がいたじゃう本来ならあの場所で死ぬのはお主じやなくてあの少女だったようでの、その少女を庇つて死んでしまったことを謝りたかったのじやよ、お主本来なら後70年は生きている」とができたから」

なるほどなるほど本来なら俺は死なずにあの少女が死んでその後70年は生きていたということか

「まあいいか、俺はあるの少女を助けることができ良かつたと思つてゐるし、それで神様、俺はこの後どうするの?地獄行き?それとも天国行き?」

そう俺が神様に聞くと

「そのどちらでもないだ

と返されたどゆこと?

「お主には転生してもう一つになつてあるからな、ちなみにこれは決定事項じゃ覆ることはありえんから」

拍石権がないと来ましたかそんならしじうがないな、でも、まあどりあえず

「神様が言つてる転生つて一次創作小説に  
良くあるあれか」

「れだけは聞いておく多分そつなると想ひがどさ

「そろそろそれそれ、転生するにあたって聞きたい事とかあるかの？願い事は五つまでじゃからの」

あつやつぱつテンプレか

「じゃあ質問するが転生する世界は俺が決めることは可能か？あと何故願い事の数が五つなんだ」

「行く世界の特定はダメじゃが魔法がある世界に転生したいなどの希望はオーケージャよ、願い事の数じゃが本来三つが限度なのじゃが今回は特例として一つ増やしたのじゃよ、アニメや漫画の能力も願い事一つ消費すれば手に入るがどうする？世界の希望は願いの一つには入らないからの」

願い事の数が五つか・・・・多いなあ、まあとりあえずどんな能力を貰うかだよな、ある程度自由にできてチートに近い能力・・・・・・！？あれがあつたじゃないか！ある程度自由がきいてチートに近いやつが！

「能力はとりあえず決まったぞ」

「おお、決まったかどんな能力にするんじゃ、王の財宝や無限の剣製ではないのじゃろ？」

「当然だら、そんなのありきたりすぎてつまらん俺が欲しいのは」

「欲しいのは？」

「Angel Beatsの天使、立花かなでのガードスキル

## 全てとANGEL PLAYERだ

俺が希望の能力を言つと神様が笑い出した、そんなに可笑しいか？

「今まで色んな転生者を見てきたがここまで儂を愉快な気分にさせたのは初めてじゃー。よからうその願い聞き入れた、細かい設定もするか？」

えついいの？それじゃあ

「ガードスキルだけど、全部完成した状態にしてくんない？ハーモニクスとか未完成のままだと使つた時攻撃されそうだし、そんでANGEL PLAYERだけ専用のパソコンか何かくれるとありがたい、それとANGEL PLAYERとかで直死の魔眼的なものつて作つても問題ないかな」

神様は少し考えた後に

「そういうかなり特殊な能力は歳の数だけなら作つてもいいぞ、それとエンジェルズウイングはちゃんと飛べるようにしたからの」

と言つてくれた、それとエンジェルズウイングで空を飛べるのは嬉しい、ありがと神様、後は容姿に世界の希望、身体能力や魔力などか、頭脳？前世の記憶があれば無問題

「容姿の願い事言つていいか？ガードスキルやらANGEL PLAYERで気づいていると思うが容姿を立花かなでに似せてく  
れ性別はちゃんと男で頼む」

と言つたら神様が今度は大爆笑した、今回は笑いが長いのでちよつと放置

～～～～～10分後～～～～

「げほつげほ、お主どんだけかなでちゃんと好きなんじや、・・・・・いまお主の体を再構築してかなでちゃんと限りなく似てゐる男の娘にしてあるからな、ほい、終わつたぞこれが今のお主の容姿じや、あと願い事は三つじやな」

といつて神様は鏡を出してくれた、おお、立花かなでにそつくりだ・・・・・ただ目の色が黄色と赤の虹彩異色を除いて、あれかなオリジナルとハーモニクスで出てきたかなでの分身の目の色を組み合わせたのかな多分そつだろ、そう願いたい、・・・・まあそれは置いといて

「世界の希望はまず魔法がある、次に地球がある、次に、日本に生まれる、世界の希望はこれぐらいで次の願い事は身体能力や魔力かな」

「言つてみよ」

「まず身体能力だけど初期の頃は同年代の子と同じで訓練すればするほど身体能力が増加、次に魔力だけど転生する世界の主人公の一ランク下ぐらいで、その主人公の人間の魔力値が上がらないとこつちも上がらなくてどう頑張っても主人公の一ランクしたままでしか上がらない」

「ふむ、オーケージャ、あと一つの願い事はどうする」

ふうむ戦闘スキルはもう充分だから、うんやっぱあれかな

「四つ目、かなりの家事スキルが欲しい、いくら強くても家事が出来なきゃ話にならん家事のできない者など論外だ」

「心得た、それでは最後の願いを聞こいつ」

「その前に能力の追加事項言つてもいいか?」

「構わんが何を追加するのじや」

「特定のスキルを除いた全てのスキルに非殺傷設定と殺傷設定を切り替えることが出来るようにしてほしい、それとガードスキルなどのA N G E - P L A Y E R を使って手に入れたスキルは魔力を使わないで出せるようにしてくれ」

「そこまでじゃと最後の願い事を使わないと無理じゃが、使うかの?」

最後の願い事を使わなければいけないが、俺が今まで世話になった人たちに礼を言つてもらおうとしたんだが、しょうがない

「分かつた最後の願い事を使う」

俺がそう言つと神様が作業に移つた、一分ぐらいですべての作業を終わらすとか早すぎるだろ

「じゃあ行つてくるよ神様、それと願い事じゃなくて頼み事があるんだけど、俺はあの世でも元氣でやつてるとでもあの少女に伝えてくれ

「相分かつたその頼み事聞き入れよう、それでは行って来い、ちなみにちゃんと赤ん坊からの転生じゃからな、ANGEL PLAYERを使うための機械は五歳の誕生日になつたら送つてやるから心待ちにしとるがいい、それでは良い来世を」

神様がそう言つと田の前が真っ白になつて俺は転生した。

~~~~~そのあとの神様~~~~~

「さてとあ奴のいく世界はどうになるかなーっと

そう言つと神様は回つている的にダーツを投げた結果は

「魔法少女リリカルなのは、か確かあの世界には何人か転生者がいたのう、まああ奴なら問題ないじやろう、さて次の転生者はどんな能力を欲しがるやら、まあ恐らくあ奴みたいな奴はそう簡単に現れないからのうあ奴がどんな人生を送るのか楽しみじゃわい」

そう言つと神様はこの空間からいなくなつた

プロローグ2（後書き）

主人公がチートっぽい能力を得て転生しました。

それと皆様に聞きたいんですが、かなでちゃんの髪の色って何色でしたっけ

この駄文に付き合ってくれてありがとうございます、私には文才がないので暖かい目で見てくれるととても嬉しいです

これからもよろしくお願いします

捨てられて、拾われて

僕は生まれてすぐ両親に捨てられました。しかもよりによつて真冬の雪が降つてゐる日に捨てられました、あれは死ぬかと思いました、いくらガードス kill を持つてゐるとはいへ今はただの赤ん坊のため寒さに勝てるわけもなく意識を失つてしまい氣絶してしました

それで目を覚ましたら知らない天井がありまして僕が目を覚まして現状把握してると若い男の人と若い女の人の夫婦がやつてきて

「君、『』両親はどうしたの？」

と聞いてきたので僕は首を横に振つた後

「おとうさんとおかあさんいなくなつたの、おまえはここでいいこにしてるんだよつていつてあのばしょからいなくなつづいたらきをうしなつていたの」

と言つたそしたら女人の人人が僕をいきなり抱きしめて

「もういいのよ、我慢しないで泣きたいなら泣いていいのよ、私たちがちゃんと受け止めてあげるから」

と言つてくれた為、僕は存分に泣いた、五分くらい泣いて泣き終わった

「ありがとうございます」

「別にいいわよ、これくらい……とにかくあなた、これからどうするの？」「いつものも何だけど親に捨てられたんでしょ」

もの凄いバッサリ言つたな～この人、言われてから気づいたけど何どうしよう

「えっと、かえるいえがないのどこかのじゅくしようとおもつたのですが」

僕がそう言つと、ゆりさん（ちなみに名前はさつき聞いた、旦那さんの名前は弓弦といつらじい）が凄い形相で僕に詰め寄つて

「あー？ アンタついさつき外の寒さに耐え切れず氣絶してたでしうがー！ それなのに何で野宿つて言葉が出るのよ！ てかなんでアンタみたいな、4歳の子供が野宿なんて言葉知つてんのよ！」

とかなり怒鳴り散らした為それにビッククリした僕は目尻に涙を浮かべて泣きそうになつてた、それを見たゆりさんが「えつこれ私が泣かしたの？」と言いながら狼狽していた、それに見かねた弓弦さんが、僕の頭を撫でながら

「泣くな泣くな、ゆりもこんな子供を泣かすんじゃない大人気ないぞ」

「しうがないじゃない、だつてこの子この年で野宿なんて言葉使つてんのよ、それよりこの子どうするの弓弦？」

ゆりさんが弓弦さんに何か相談してる、何の相談だろ？

「…………」「れならびつだゆり」

少し考えた後『弦さんがゆりちゃんに耳打ちした

「まあ、それしか無いわよね、ねえアナタ名前は?」

ゆりさんに名前を聞かれたから

「かなでです」

と簡潔に答えた、そつしたらゆりさんが

「じゃあかなで、アナタは私たちが引き取るから今日から天使あまつかかなでと名乗りなさい、反論は無しよ」

と半強制的に天使家の養子になることが決定しました

捨てられて、拾われて（後書き）

この小説を見て貰えてありがとうございます

捨てられた主人公を拾つた2人の夫婦の元ネタは名前の時点で気づいていましたが、Angel Beatsの音無とゆりっぺです
名字ですが立花か天使のどっちかにするか迷いましたが結局天使になりました

相変わらずの駄文ですがこれからも読んで貰えると嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5032ba/>

天使となった男

2012年1月14日17時36分発行